

製品名: TGFβ1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18858**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:100-1:300,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	44-55kDa

抗原情報

遺伝子名	TGFB1
別名	TGFB1; TGFB; Transforming growth factor beta-1; TGF-beta-1
遺伝子 ID	7040.0
SwissProt ID	P01137
免疫原	抗血清はヒト TGFβ1 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 336-385

背景

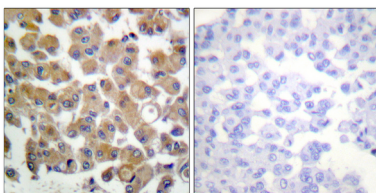
この遺伝子は、TGF-β（形質転換成長因子 β）スーパーファミリータンパク質の分泌リガンドをコードしています。このファミリーのリガンドは様々な TGF-β 受容体に結合し、遺伝子発現を制御する SMAD ファミリー転写因子のリクルートと活性化を引き起こしま

す。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解処理を受けて潜伏期関連ペプチド (LAP) と成熟ペプチドを生成し、成熟ペプチドホモダイマー、LAP ホモダイマー、および潜伏期 TGF- β 結合タンパク質からなる潜伏型、または成熟ペプチドホモダイマーのみからなる活性型のいずれかで存在します。成熟ペプチドは、他の TGF β ファミリーメンバーとヘテロダイマーを形成することもあります。このコードされているタンパク質は、細胞の増殖、分化、成長を制御し、インターフェロン γ や腫瘍壊死因子 α などの他の成長因子の発現と活性化を調整することができます。この遺伝子疾患: TGF β 1 の欠陥は、カムラティ・エンゲルマン病 (CED) [MIM:131300]の原因です。進行性骨幹部異形成症 1 (DPD1) としても知られています。CED は、長管骨の骨増殖症および骨硬化症を特徴とする常染色体優性疾患です。この疾患は、典型的には小児期早期に疼痛、筋力低下、よちよち歩きを呈し、場合によっては眼球突出、顔面麻痺、難聴、視力喪失などの他の症状を呈します。機能: 多くの細胞型において増殖、分化、その他の機能を制御する多機能タンパク質です。多くの細胞が TGF β 1 を合成し、それに対する特異的受容体を有しています。TGF β 1 は、他の多くの成長因子を正および負に制御します。TGF beta 1 は骨形成を強力に刺激し、分化誘導された骨芽細胞の走化性、増殖、分化を引き起こすため、骨リモデリングにおいて重要な役割を果たします。誘導:in vitro で pH 3.5 未満および 12.5 を超えると活性化されます。オンライン情報:TGF beta-1 エントリ,多型:閉経後日本人女性では、骨粗鬆症の被験者の方がコントロールよりも Leu-10 の頻度が高くなっています。PTM:グリコシル化されています。PTM:前駆体は成熟 TGF-beta-1 と LAP に切断され、成熟 TGF-beta-1 に非共有結合したままになるため、不活性になります。類似性:TGF-beta ファミリーに属します。サブユニット:不活性型は、潜伏関連ペプチド (LAP) ホモダイマーに非共有結合した TGF β 1 ホモダイマーで構成されています。不活性型複合体は、潜在型の TGF β 1 結合タンパク質を含む場合があります。活性型は、成熟型 TGF β 1 のホモ二量体であり、ジスルフィド結合しています。TGF β 1/TGF β 2 のヘテロ二量体は骨で発見されています。CD109 および DPT と相互作用します。組織特異性: 骨で高発現しています。、

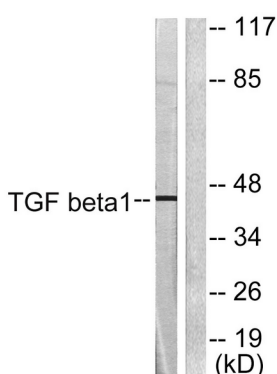
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;TGF-beta;IgA 産生のための腸管免疫ネットワーク;がんの経路;結腸直腸がん;腎細胞がん;膵臓がん;慢性骨髄性白血病;肥大型心筋症 (HCM);拡張型心筋症;

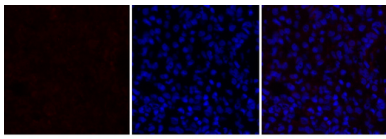
画像データ



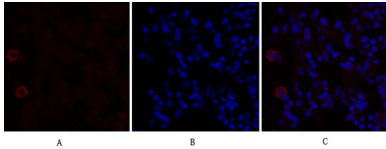
TGF β 1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



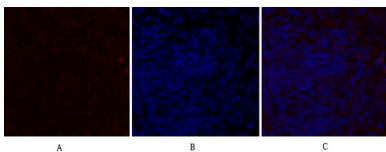
TGF β 1 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



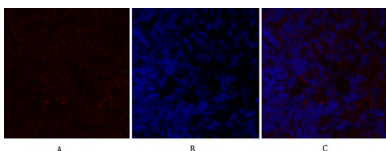
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, TGFβ1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



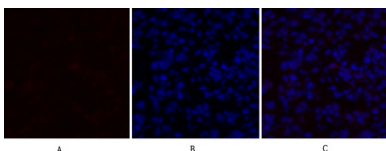
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, TGFβ1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



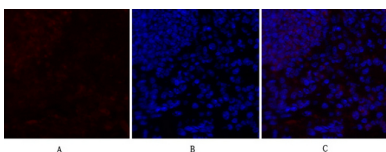
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, TGFβ1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



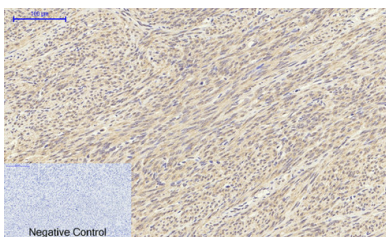
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, TGFβ1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, TGFβ1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, TGFβ1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1, TGFβ1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3, 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。